

第5章 田園地域・中山間地域のまちづくり方針

5—1 田園地域・中山間地域の位置づけと課題

位置づけと役割

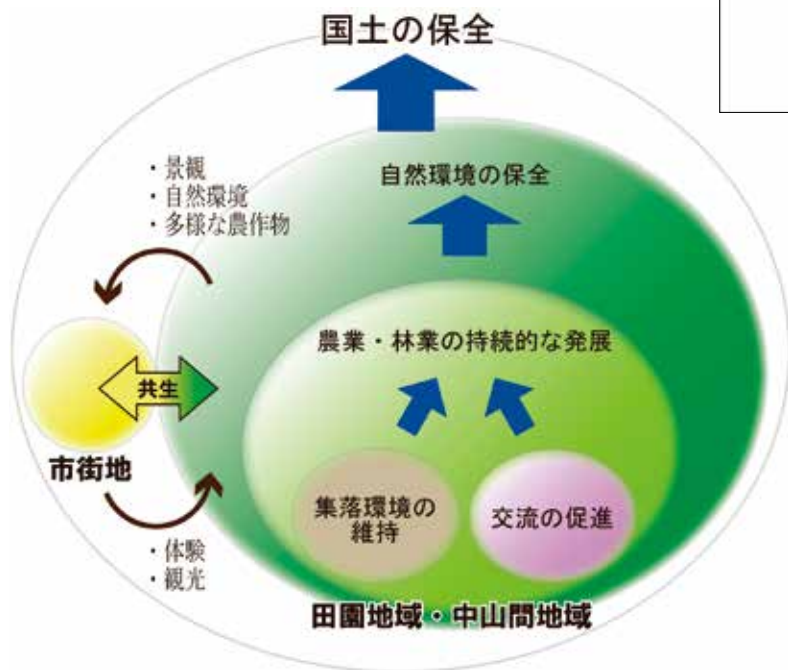
市街地を取り巻く田園地域・中山間地域は豊かな自然環境や多様な生態系の保全並びに農作物の生産・供給の場であり、広大な田園風景や里山の原風景は、都市に潤いと安らぎを与えています。

両地域においては、今後とも無秩序な市街化を抑制しながら、自然環境や農林業の保全とその担い手である既存集落のコミュニティの活性化を図っていく必要があります。

◆田園地域・中山間地域



◆位置づけと役割のイメージ



凡 例	
	北陸新幹線
	鉄道 (JR北陸本線・IRいしかわ鉄道線)
	鉄道 (北陸鉄道)
	主要な河川・河北潟・日本海
	市街化区域
	田園地域
	中山間地域
	都市計画区域
	行政区

※田園地域とは:土地利用区分(p40)の「農業環境保全活用地区」を指し、概ね鉄道以西の平場のエリアとします。
 ※中山間地域とは:土地利用区分(p40)の「自然環境共存地区」「自然環境保全地区」を指し、概ね鉄道以東の中山間地域のエリアとします。

現状と課題

これまで、田園地域・中山間地域では、農林業などの地域資源を活かし産業とすることで地域の経済を支えてきました。また、その担い手が集落を形成し、環境や資源の維持に繋げてきました。

このように、両地域は、地域資源・経済・社会が相互に調和し、成り立ってきました。

しかし、近年の人口減少や高齢化の進展によって、農林業の衰退や地域活力の低下、地域コミュニティの脆弱化が危惧されています。

今後、両地域が培ってきた大切な機能を保つため、地域活力の維持や集落の再生を図ることが課題となっています。

地域活力の維持に向けた主な取組例

(金沢の農業と森づくりプラン2025)

1. 農林業の持続的な発展

農林業の振興策や担い手の確保、基盤整備を進め、地域を支える産業として確立

◆農林業の振興

- ・生産力向上のための基盤整備、6次産業化など新たな農林業の推進 など

◆農林業の担い手育成

- ・認定農業者や集落営農組織など地域の農業を支える担い手の育成 など

2. 快適に暮らすことができる集落環境の維持

土地の有効活用による居住環境や交通・生活の利便性の維持により、それぞれの地域で暮らし続けることができる環境を形成

◆居住環境や交通・生活の利便性の維持

- ・里山定住支援制度の周知による集落内の空き家や空き地の活用促進 など

3. 田園・中山間地域内外の交流の促進

地域資源や既存施設などを利活用した交流拠点の整備・交流機会の創出により、地域内外の交流を育み、活気ある地域社会を形成

◆交流拠点の整備

- ・既存施設を利活用した地域交流拠点の形成に向けた検討 など

◆交流機会の創出

- ・地域イベントの開催など豊かな地域資源を活用した交流機会の創出 など

4. 豊かな自然環境と国土の保全

地域の位置付けを踏まえた土地利用規制・誘導と環境保全対策、市民の意識啓発を図ることにより、自然環境及び国土を保全

◆国土保全の推進

- ・水源かん養や土砂災害防止など多面的機能を有する農地や山林の保全 など

◆環境保全の意識啓発

- ・里山の荒廃防止、山林の維持に向けた意識啓発 など

5—2 課題の解決に向けた基本的な考え方

両地域が有する位置や地形の違い、集落の規模・人口動態、農林業の形態、地域資源などの特性を踏まえながら、各集落の多様な課題を解決に導く必要があります。

そのためには、前述した農業振興策や地域活性化策などの取組を継続し、改善を加えるとともに、都市計画制度などを活用した新たな支援により、それらの取組を後押ししていくことが強く求められています。

新たな支援制度を検討する際の基本的な視点を以下に示します。

- 農林業の効率を阻害するいたずらなスプロールの防止
- 地域の自然環境や農林業並びに集落の伝統文化や技術の担い手の確保
- 6次産業化などの新たな農林業の展開
- 生活の利便性を確保するために必要な施設の配置
(施設の誘導を図ることで地域の交流拠点を形成し、周辺集落を含めた利便性向上に繋げる)



▲田園地域の農地



▲中山間地域の農地



▲農業の担い手育成



▲農業のオーナー制度



▲企業による森づくり活動



▲地域の特性に基づく伝統技術

<支援制度の検討例(都市計画・まちづくり制度)>

ステップ1

集落環境の維持・再生の支援を検討

両地域が抱える課題と整合が図られた都市計画制度(開発基準)を検討します。



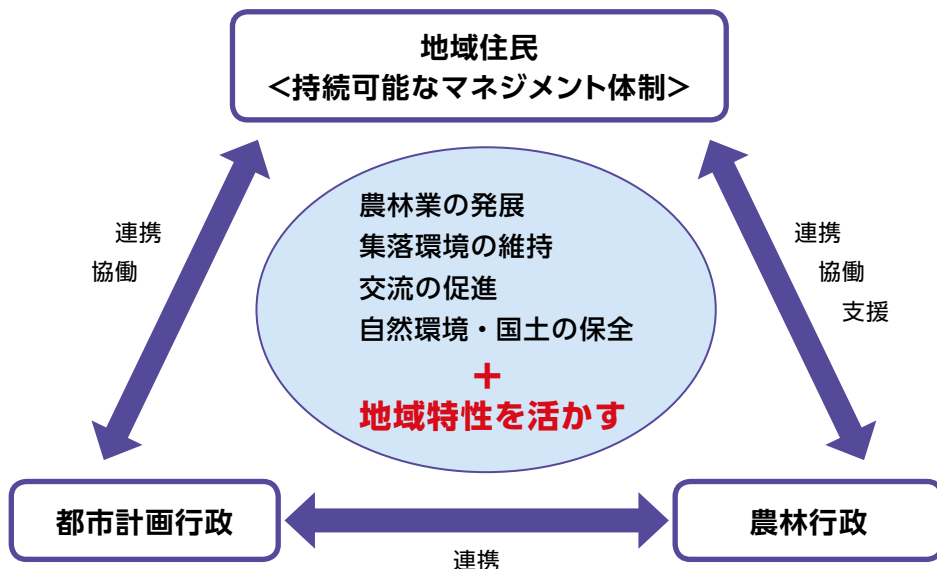
住民が主役となり地域特性を活かした取組はステップ2



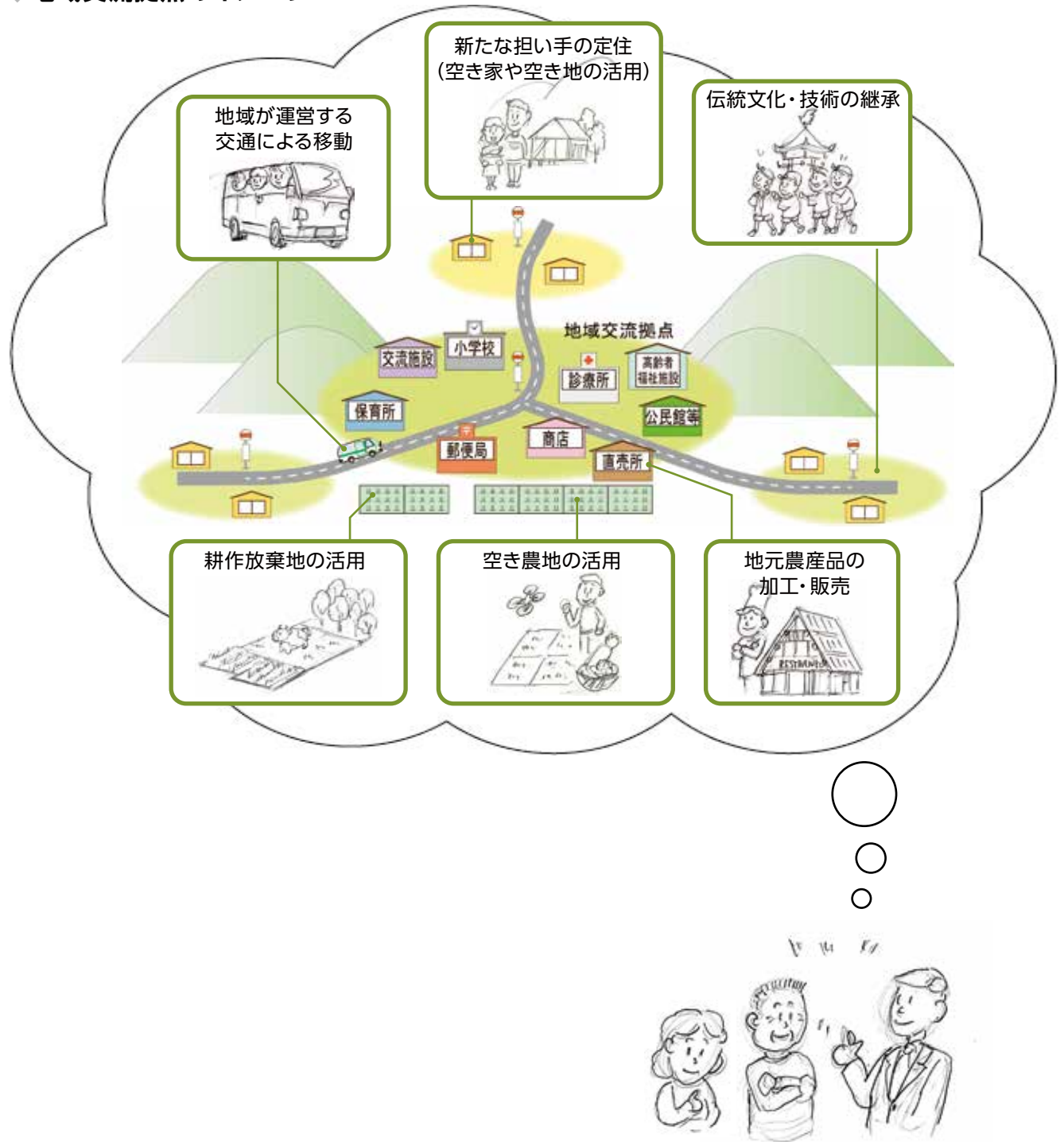
ステップ2

地域交流拠点の形成に向けた仕組みの検討

地域交流拠点の形成に向け、住民の積極的な参加のもと、地域特性を活かしたまちづくりのビジョンと自立したマネジメント体制を有し、地区計画などの都市計画制度と農林業の振興策が三位一体となった新たな仕組みを検討します。



◆地域交流拠点のイメージ



5—3 将来に向けた議論の提案

今後の予測と想定される課題

金沢市においても人口減少の進展は避けがたく、中山間地域においては既にその流れの中にある、その傾向は強くなっていくと予測され、以下のような課題が発生すると想定されます。そのため、これらを視野に入れた議論を進め、将来に向けて布石を打つことが求められます。

- 共同体としてのコミュニティが機能不全に陥るとともに地域固有の文化が喪失
- 農林業の担い手不足により耕作放棄地や荒廃人工林が増加
- 空き家や空き地の増加とともに所有者不明の土地・建物が増加
- 人の介入により成立する里山が荒廃し、鳥獣被害や自然災害が増加 など

将来的な検討の提案

既に自立が困難と思われる小規模集落も存在する現状から、長期的な議論として、これら集落の文化を残すとともに既存集落に力を集約し中山間地域全体のコミュニティの活性化を目指すために、集落の移転も検討の価値があると考えられます。

これは、単純な切り捨て論ではなく、中山間地域のエリア全体の活性化や機能の向上を進めることを目的としたもので、もちろん個々の集落の住民の深い議論による総意であることが前提となります。

まずは、「地域交流拠点」を核とした前述の新しいまちづくりを官民が協働で推進し、様々な取組を展開することが重要です。その上で、高齢者が慣れない都市空間に移住し戸惑う事例もあることから、将来を見据えた広い視野にも思いを馳せ、様々な立場やケースについても幅広く深い議論を尽くしていくことが求められると考えます。

◆ 将来に向けた提案(イメージ)

